

研 究 会 開 催 通 知

(昭和 57 年 11 月 15 日～12 月 31 日)

研 究 会	日 時		会 場	備 考
分散処理システム	11月18日(木)	10:00～17:00	九 大	前号参照
データベース・システム	11月18日(木)	13:30～17:00	機械振興会館	同 上
コンピュータビジョン	11月26日(金)	10:00～17:30	臨 床 研	同 上
数 値 解 析	11月27日(土)	13:30～16:30	機械振興会館	同 上
グラフィックスと CAD	11月30日(火)	13:00～17:00	名 大	同 上
ソフトウェア工学	11月30日(火)	13:30～17:00	機械振興会館	同 上
マイクロコンピュータ	12月 2 日(木)	13:30～17:00	商業界会館	下記参照
自然言語処理	12月 7 日(火)	13:00～17:00	電 総 研	同 上
	12月 8 日(水)	9:00～17:00	同 上	同 上
知識工学と人工知能	12月 8 日(水)	10:30～17:00	京 大 会 館	同 上
ソフトウェア基礎論	12月10日(金)	9:30～19:30	理 研	同 上
計算機アーキテクチャ	12月17日(金)	9:10～17:10	阪 大	同 上
設計自動化	12月17日(金)	10:00～17:00	大阪電通大	同 上
記 号 処 理	12月21日(火)	11:00～17:00	青 学 大	同 上

◆ 第 24 回 マイクロコンピュータ研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 石田晴久, 幹事: 木村友則, 鷹野 澄)

日 時 昭和 57 年 12 月 2 日 (木) 午後 1 時半～5 時

会 場 商業界会館 2 階大会議室

〔東京都港区麻布台 2-4-9, 地下鉄: 日比谷線神谷町, バス: 渋谷一東京タワー線東京タワー, 等々力ー東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車, 飯倉交差点角, Tel. 03 (584) 7311〕

- 議 題 (1) パソコン CP/M の現状と問題点 山口幸也 (マイクロプロ)
 〔概要〕 国産パソコンの CP/M の性能比較を試み, ディスクアクセスの能率と設計方針について考察する.
- (2) MC 68000 開発支援システム 五十嵐智 (農工大・工)
 〔概要〕 各種のハード, ソフトのデバッグ・調整ツールを備えた 68000 用開発支援システムについて発表する.
- (3) MC 68000 用 OS の基本設計 (1)ーファイルシステムの設計ー 林 努, 高橋延匡 (農工大・工)
 〔概要〕 現在 MC 68000 用 OS の開発を行っている. 今回は, このうち日本語情

報処理を意識したファイルシステムの設計について報告する。

(4) パーソナルコンピュータによるカナ文字認識実験とその実用性

吉本万寿夫, 百瀬美子 (日本ユニバック)

〔概要〕 パーソナル・コンピュータにタブレットを接続して, 手書き文字 (英数カナ) の認識実験を行ったので, その実験環境および結果について報告する。

◆ 第 34 回 自然言語処理研究会

(発表件数: 11 件)

(主査: 長尾 真, 幹事: 田中穂積, 野村浩郷, 辻井潤一)

日 時 昭和 57 年 12 月 7 日 (火) 午後 1 時～5 時

12 月 8 日 (水) 午前 9 時～午後 5 時

会 場 電子技術総合研究所 D 棟 822 号室

〔茨城県新治郡桜村梅園 1-1-4, 国鉄: 常磐線 荒川沖下車 (上野発 10:33 (普通))—荒川沖着 11:30 ※ダイヤ改正により変更の可能性あり。バス: 関東鉄道バス 筑波大中央行, 並木 2 丁目下車 (駅前発 11:40, 約 10 分乗車), 徒歩約 5 分, Tel. 0298 (54) 5423〕

議 題 12 月 7 日 (火)

(1) 英日機械翻訳

—トランスファと訳文生成について—

天野真家 (東芝・総研), 平川秀樹 (ICOT)

〔概要〕 英日機械翻訳におけるトランスファおよび訳文生成の記法と適用方法について報告する。

(2) 融合方式による機械翻訳システムの実験

田中穂積, 井佐原均 (電総研), 安川秀樹 (ICOT)

〔概要〕 筆者等が提案した融合方式による機械翻訳の実験結果とその後の検討結果を報告する。

(3) 意味解析向きの自然言語パーサ

内田裕士, 増山顕文, 小部正人 (富士通研)

〔概要〕 文法規則と意味関係規則を用いて入力文を解析し意味ネットワークを出力する自然言語パーサを紹介する。これは機械翻訳システム ATLAS/U の言語解析部で使用されているパーサである。

(4) 論文表題の日英機械翻訳システム

長尾 真, 辻井潤一, 伊吹 潤, 上田良寛 (京大・工)

〔概要〕 技術論文の表題 (特に情報処理関係) の日本語から英語への翻訳を行うシステムを作った。このシステムはキーワードによる情報検索機能をもっている。

(5) 推論機構研究室見学会

12 月 8 日 (水)

(6) 双方向性階層的関数型言語 Bi-HFP による自然言語処理の

記述について

田村直良, 片山卓也 (東工大・工)

〔概要〕 自然言語の処理過程を top-down 的あるいは bottom-up 的に動作する計算モデルによって階層的かつ関数的な記述を試みた。

(7) Prolog に埋め込まれた bottom-up parser

松本裕治, 田中穂積 (電総研)

〔概要〕 Prolog に埋め込まれたパーサとして DCG があるが, これはトップダウン・パーサであるため左再帰的な文法規則が扱えない. 本発表では, これにかわるボトムアップ・パーサを提案し, 文法規則からこのパーサへの翻訳プログラムも紹介する.

(8) COLING 82 とヨーロッパ人工知能会議に出席して

新田義彦 (日立・シ研), 長尾 真 (京大・工)

〔概要〕 COLING 82 とヨーロッパ人工知能国際会議の様子と, 主な発表論文を紹介する.

(9) ATN と格解析を融合した英文名詞句解析

飯田 仁, 小倉健太郎, 野村浩郷 (武蔵野通研)

〔概要〕 動詞句修飾句を伴った英文の名詞句構造に対し, CFG, あるいは LSP における記述と比較しながら, 動詞句修飾句を格構造として捉える記述法を示し, それを用いた機械翻訳システム LUTE における名詞句解析手法について述べる.

(10) 意味情報を用いた日本語の生成

—イエール大学における自然言語処理—

石崎 俊 (電総研)

〔概要〕 1981 年 9 月から 1 年間, イエール大学において, 意味構造から日本語を生成するシステムを作成したので, 当大学の近況と併せて報告する.

(11) 漢字の読みの分類とその統計的性質

稲永紘之 (九州芸工大)

吉田 将 (九大・工), 高木康夫 (日本ユニバック)

〔概要〕 JIS 第 1 水準の漢字を対象として, 音訓, 音便, 連濁, 連声などの音韻変化, 呉音, 漢音, 唐音, 慣用音, 国字音などの別により, 読みを細分化し, さらに単語機械辞書中の読みも調べることで, 漢字の読み方, 音韻変化の条件などに関して統計的性質を調べた.

(12) 日本語文解析におけるテンス・アスペクトの問題

草薙 裕 (筑波大・文芸)

〔概要〕 構造上曖昧である日本語のテンス・アスペクトの表現の問題点と, それが実際の文にあらわれた場合の解析のアルゴリズムを論じる.

◆ 第 28 回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 志村正道, 幹事: 辻井潤一)

日 時 昭和 57 年 12 月 8 日 (水) 午前 10 時半～午後 5 時

会 場 京大会館 1 階 102 号室

〔京都市左京区吉田河原町 15-9, 国鉄: 京都駅下車 (北口), 市バス 206 番東一条下車, 徒歩 5 分, Tel. 075 (751) 8311〕

議 題 (1) 両方向推論に基づく Prolog 処理系について

吉田 幹, 平田幹人, 山崎 進, 堂下修司 (京大・工)

〔概要〕 トップダウン推論とボトムアップ推論を統合した両方向推論方式による効率的な Prolog 処理系を構想する.

(2) マイクロコンピュータ上での補完的英文生成システムの実現

松永義文 (阪大・基礎工)

〔概要〕 不完全な英文テキストから、補完と呼ばれる推論手続きを用いて、より完全なテキストを生成する手法について述べる。

(3) 臨床検査システムにおける疾患名判別

永井英保, 久江 正, 藤田安臣, 小林 勝,
吉田健一, 谷口邦彦 (住友電工)

〔概要〕 血液の生化学検査のデータから、医師の思考過程を直接利用して、可能性の高い疾患名を抽出する診断支援システムについて述べる。

(4) 分散処理型運動モデルの解析とその応用 田中俊明 (東芝・総研)

〔概要〕 ミミズの運動を考察して、分散処理型運動モデルをつくった。その直線運動に関する解析結果と応用の可能性について述べる。

(5) COMEX: 汎用知識型エキスパート・システム開発言語

上野晴樹 (電機大・工)

〔概要〕 プロダクション・システムとフレーム理論の概念に基づく、実用性指向の汎用ツールである COMEX について述べる。

(6) 概念ネットワークを利用した知識獲得支援

渡辺正信 (日電・C & C システム研)

〔概要〕 ルールベースシステムにおける知識獲得を、概念ネットワークに基づき、支援するメタシステムについて述べる。

◆ 第3回 ソフトウェア基礎論研究会

(発表件数: 11 件)

(主査: 淵 一博, 幹事: 雨宮真人, 二村良彦)

日 時 昭和 57 年 12 月 10 日 (金) 午前 9 時半～午後 7 時半

会 場 理化学研究所 レーザー棟会議室

〔埼玉県和光市広沢 2-1, 東武東上線, 和光市駅 (池袋より準急で 14 分) 下車徒歩 15 分, Tel. 0484 (62) 1111 コーディネータ: 井田哲雄 内線 3252〕

議 題 第一部: 基礎 (9: 30～10: 50)

座長: 米澤明憲 (東工大・理)

(1) 項書き換えシステムとその応用

外山芳人 (武蔵野通研)

二木厚吉 (電総研)

〔概要〕 関数的プログラミング言語の計算モデルとして項書き換えシステムをとりあげ、その理論と応用について述べる。

(2) Extensibility and Maintainability of System with Many Data Types—A Case Study on Algebra Systems. 佐々木健昭 (理研)

〔概要〕 数式処理システムでは多数の型の数式を厳密に扱うことが必要である。そのような厳格複雑なシステムの拡張性の保守性の向上に対して一案を提出する。

(3) 関数型言語 ML (Meta Language) について 斉藤信男 (慶大・理工)

〔概要〕 エディンバラ大学で開発している LCF システムを記述している ML は、一種の関数型言語である。これは、多様型の言語であり、また型の構成子により任意の型が定義できる。

ML の使い心地, 応用, 処理系について紹介をする。

(4) 並行プログラミングのための作用的通信機能

山野紘一, 木谷有一, 渡辺 坦 (日立・シ研)

〔概要〕 作用的プログラミングのわく組において, 並行プロセスを記述するためのメッセージ通信機能を提案する.

第三部: Prolog (13: 30~14: 50) 座長: 後藤滋樹 (横須賀通研)

(5) Prolog の大規模並列処理モデルについて

安原 宏, 小松英二 (沖電気)

〔概要〕 数十~数百のプロセッサを用いたシステム上で Prolog を並列処理するためのモデルについて考察する.

(6) データベース分割を用いた Prolog の並列処理方式

中川裕志, 林 一司 (横浜国大・工)

〔概要〕 データベースを複数個に分割することによる Prolog の並列処理方式を提案し, その完全性について述べる.

第四部: 関数的プログラム II (15: 10~16: 30)

座長: 雨宮真人 (武蔵野通研)

(7) 階層的関数型言語 HFP の実現

石川 徹, 塩田憲行, 片山卓也 (東工大・工)

〔概要〕 階層的関数型言語 HFPL/2 の言語仕様, および記憶効率を重視したコンパイラとインタプリタの実現法について述べる.

(8) “Stream” extension of FP 井田哲雄 (理研), 田中二郎 (Utah 大)

〔概要〕 大形計算機上に実現した FP システム (J. Backus の提唱する関数的プログラムシステム) の概要説明と FP システムに埋込んだストリーム処理手法の説明を行う.

第五部: 関数的プログラム III (16: 50~18: 10) 座長: 井田哲雄 (理研)

(9) 関数型言語 Valid における記号処理機能の拡充

小野 諭, 長谷川隆三, 雨宮真人 (武蔵野通研)

〔概要〕 データフローマシン上での実行を前提として設計した関数型高級言語 Valid における記号処理機能の拡充について論じる. 特に, Lazy evaluation, パターンマッチ機能, モジュール化概念とメッセージ通信機能を中心に述べる.

(10) Code Optimization in Function-Equation Language (FEL)

田中二郎 (Utah 大)

〔概要〕 Utah 大学で開発した関数型言語 FEL におけるプログラムの最適化手法について説明する.

第六部: 特別講演 (18: 30~19: 30) 座長: 佐々木建昭 (理研)

(11) Function-Equation Language (FEL) について

Robert Keller 教授 (Utah 大)

◆ 第 39 回 計算機アーキテクチャ研究会

(主査: 飯塚 肇, 幹事: 坂村 健, 大島一純)

日 時 昭和 57 年 12 月 17 日 (金) 午前 9 時 10 分~午後 5 時 10 分

会 場 大阪大学基礎工学部 情報工学科ゼミナール室 (G 206)

〔豊中市待兼山町 1-1, 阪急宝塚線石橋下車, 東南徒歩 18 分, または大阪空港よ

りタクシー 3km Tel. 06 (844) 1151]

議 題

(1) 回線型 H-R バス結合並列計算機 HYPHEN C-16 について

有田五次郎, 末吉敏則, 最所圭三 (九大・工)

〔概要〕 メモリ共有型並列計算機のモデルである回線結合の並列計算機 HYPHEN C-16 について報告する.

(2) 高級言語向きのスタックマシン上での PASCAL マシンの実現と評価

和田耕一 (神戸大), 仲辻俊之, 金田悠紀夫, 前川禎男 (神戸大・工)

〔概要〕 筆者らが以前に開発した, FORTH プログラムを高速に実行できる高級言語計算機, FORTH マシンシステムを利用して, PASCAL マシンを実現し, ベンチマークテストを用いて本システムの評価を行う.

(3) 多数個プロセッサ・アレイ —バス・アレイ—

相原玲二, 岡田高幸, 栄藤 稔, 阿江 忠 (広大・工)

〔概要〕 並列処理において並列度が高くなるほど, システム全体の効率処理ユニット間の結合形状とその上で実行する処理の流れに大きく依存するようになる. 本稿では並列処理記述の一方式を検討し, バスにより結合されたプロセッサをアレイ状に並べるバス・アレイ構造への応用を述べる.

(4) 2進木構造並列処理システム CORAL による関数型プログラムの処理

西山和義, 山根義孝, 高橋義造 (徳島大・工)

〔概要〕 関数型プログラムを CORAL の2進木構造を利用して効率よく並列処理を行う処理系を作成し評価実験を行った.

(5) 2レベルマイクロプログラム制御計算機

MUNAP のシステム記述言語: MSDL

山崎勝弘, 橋本信行, 金井裕之, 馬場敬信, 奥田健三 (宇都宮大・工)

橋本和彦 (日立 SK)

〔概要〕 2レベルマイクロプログラム制御計算機 MUNAP のシステム記述言語: MSDL の言語仕様, 処理方式, 評価について述べる.

(6) マルチプロセッサ型並列処理機械の有用性に関する2つの仮説

有田五次郎 (九大・工)

〔概要〕 マルチプロセッサシステムの重要性和有効性を示す2つの仮説, “分散アルゴリズムの仮説”と“局所性の仮説”について論じる.

* 今回の研究会は, 電子通信学会電子計算機研究会と共催で開催いたします. 上記の会告は, 10月5日現在の申込によるもので, プログラムは議題をアイウエオ順にならべた暫定的なものです. 上記期日以降の申込分を含めた最終的なプログラムは, 電子通信学会誌11月号に掲載されますので, ご了承下さい.

◆ 第15回 設計自動化研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 山田昭彦, 幹事: 上田 勤, 和田 康)

日 時 昭和57年12月17日(金) 午前10時~午後5時

会 場 大阪電気通信大学 図書館小ホール

〔大阪府寝屋川市初町 18-8, 京阪電鉄: 淀屋橋または京橋駅より急行で, 寝屋川市駅下車 (乗車時間 約15分), 寝屋川一番街を東へ徒歩10分. 右へ入る.

Tel. 0720 (24) 1131]

議 題 (1) 会話型論理設計検証支援システム ISS

蚊野 浩, 大井 康, 木村晋二, 石浦菜岐佐,
安浦寛人, 矢島脩三 (京大・工)

〔概要〕 機能記述, 入力制約, IS の会話機能等を利用した論理設計 (ISS) について紹介する。

(2) 検査入力生成アルゴリズムの高速化について

下野武志, 藤原秀雄, 尾崎 弘 (阪大・工)

〔概要〕 FAN アルゴリズムの改良版となる高速化アルゴリズムを紹介し, その有効性を評価する。

(3) ICAD/PCB における実装設計

河村 薫, 白石 博 (富士通研)
岡 常雄, 浦口久司 (富士通)

〔概要〕 統合化プリント板 CAD システム ICAD/PCB における会話型実装設計ツール Pattern Editor を中心とした実装設計のフェーズのサポートについて概要を報告する。

(4) 線分探索法によるゼネラルセル LSI 配線プログラム

永井隆夫 (三菱電機)

〔概要〕 ゼネラルセル (任意寸法の矩形セル) をチップ内の任意位置に配置した LSI の配線手法として, 線分探索法を採用する場合の有効性について報告する。

(5) MOS マスク解析システム PANAMAP-M

羽山 繁, 渡里祐子, 京井淳子, 間野洋治郎 (松下電器)

〔概要〕 MOS マスクパタンから階層的にマスク解析を行い回路シミュレータまで連結したマスク検証システムについて述べる。

(6) LSI マスクパターンの電気的および論理的接続チェックシステム ELITE について

中野敏宏, 吉田健一, 犬伏恒夫 (シャープ)

〔概要〕 LSI の手描きマスクパターン図に対する設計検証システムとその機能について紹介する。

◆ 第 21 回 記号処理研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 池野信一, 幹事: 黒川利明, 中西正和, 後藤滋樹)

日 時 昭和 57 年 12 月 21 日 (火) 午前 11 時～午後 5 時

会 場 青山学院大学理工学部 1 号館 2 階会議室

〔東京都世田谷区千歳台 6-16-1, 京王線: 千歳烏山下車, 南へ 5 分, 「千歳船橋」行き, 3 つ目の「青山学院大学・理工学部前」で下車, Tel. 03 (307) 2888〕

議 題 (1) ALPS/II の Lisp とアセンブラ

佐藤 衛, 間野浩太郎, 井田昌之 (青学大・理工)

〔概要〕 科研費で自作した Lisp マシン ALPS/II の Lisp およびこの作成に用いたアセンブラについて説明する。また実際の機械上で示す。

(2) グラフィカル Lisp システム

古川栄司, 熊谷 毅 (宇都宮大・工)
白川洋充 (立命館大・理工)

〔概要〕 図形を S 式に含めると同時に, S 式のグラフィックな表現を可能とする

システムについて説明する。

- (3) Lingol プログラムの scheme プログラムへの変換 元吉文男 (電総研)

〔概要〕 Lingol プログラムを scheme プログラムへ変換するプログラムを作成したので概要を報告する。

- (4) Associative Evaluation of PROLOG Programs

中村克彦 (電機大・理工)

〔概要〕 Prolog の効率の高い実動化のために変数一値の対とリストをハッシュ記憶に格納する方式について述べる。

- (5) Theory of multi-PRS (multi-polynomial Remainder Sequence)

佐々木建昭 (理研), 古川昭夫 (都立大)

〔概要〕 三個以上の多項式より順に剰余列を生成してできる多重多項式剰余列に対して、行列式表示を与え部分終結式理論を拡張する。

◆ ソフトウェア工学研究会

今年度最後の研究会を下記のとおり開催いたします。発表ご希望の方は 11 月 27 日 (土) までに、発表題目と 50 字以内の概要を添えて、学会事務局研究会担当までお申込み下さい。

日 時 昭和 58 年 2 月 9 日 (水)・10 日 (木)

会 場 東北大学工学部附属図書館 工学分館視聴覚室

議 題 ソフトウェア工学全般にわたり、特に生産活動における人間的要素、ソフトウェア工学の教育および製品のユーザ親和性に注目した生産現場からの発表を歓迎します。

情報処理学会 第 26 回 全国大会について

——概要と論文募集要領——

第 26 回 全国大会を下記により開催します。論文発表を希望される会員は、下記要領により、早目にお申込みください。

開催期日 昭和 58 年 3 月 15 日(火)～17 日(木)

会 場 東京工業大学(目黒区大岡山)

応募資格 本学会個人会員(正会員、学生会員)に限ります。共同発表の場合には、登壇発表者は会員でなければなりません。なお、57 年度会費未納の会員は、登壇発表ができません。また、登壇発表者の入会手続が未了の場合には申込を受けません。入会申込書がご入用の方は返信用封筒(60 円切手貼付、あて名記入)同封のうえお申出てください。

申 込 料 不要です。ただし、登壇発表される方は、論文集原稿を提出する際に、必ず参加費を納入してください

申込方法 添付の講演申込用紙(1 件 1 枚)に必要事項を記入し、宛先明記の原稿用紙送付用封筒(大きさ A 4 判…21cm×30cmのもの。切手は不要)を同封のうえ、**57 年 11 月 25 日(木)**までに(必着)、下記申込先へお送りください。登壇発表は 1 人 3 件以内とし、申込締切後の変更は一切受付ません。

論文提出 所定の原稿用紙を 12 月下旬に送付しますので、昭和 58 年 1 月 31 日(月)までにご提出ください。発表は日本語または英語で行うものとしますので、論文は日本語または英語に限ります。ただし、登壇発表者の入会手続が未了の場合には、原稿用紙を送付しませんので、ご注意ください。

そ の 他 詳細については、決定次第本欄にてお知らせします。

申 込 先 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内 308-3 号室
(社)情報処理学会 第 26 回 全国大会係 電話 03(431)2808

論文該当分野

1. 基 礎
 - a. 計算理論, b. アルゴリズム,
 - c. プログラム理論, d. その他
2. アーキテクチャおよびハードウェア
 - a システムアーキテクチャ, b. 演算装置,
 - c. 記憶装置, d. 入出力装置, e. 端末装置,
 - f. 性能評価, g. 信頼性, h. 保守技術,
 - i. マイクロプログラミング,
 - j. スーパーコンピュータ, k. その他
3. ソフトウェア
 - a. オペレーティングシステム, b. プログ
 - ラミング言語, c. 言語処理, d. 性能評価,
 - e. 信頼性, f. ソフトウェア工学,
 - g. その他
4. データベース
 - a. データベースマシン, b. データマネジ
 - メント, c. 分散データベース, d. 性能評
 - 価, e. 情報検索, f. その他
5. コンピュータネットワークおよび分散処理
 - a. システム, b. アーキテクチャ, c. プ
 - ロトコル, d. 性能評価, e. その他
6. パターン処理および人工知能
 - a. 文字認識, b. 画像処理, c. 自然言語
 - 理解, d. 音声, e. 人工知能・知識工学,
 - f. ロボット, g. その他
7. 日本語処理
 - a. 文解析合成, b. 字づら処理・辞書,
 - c. 入出力, d. その他
8. 数値計算
9. マイクロコンピュータ
10. オフィスシステム
11. 技術, 産業への応用
 - a. CAD, b. CAM, c. グラフィックス
 - d. シミュレーション, e. その他
12. 経営・社会システムへの応用
13. その他

情報処理学会 第 26 回 全国大会講演申込用紙

[illegible]

字種の多い言語の文書処理に関する国際会議（第2報）

—ICTP '83 論文募集—

1983 International Conference
on Text Processing
with a Large Character Set



期 日 1983 年 10 月 17—19 日
会 場 経団連会館（東京）
論文締切 1983 年 2 月 10 日

ICTP '83 国際会議においては、“字種の多い言語の文書処理”を主テーマとした論文発表やパネル討論会が予定されており、下記の要領にて論文の募集を行います。

分 野

下記の分野におけるハードウェアおよびソフトウェアに関する論文の募集を行います。

- ・入力技術
- ・システム設計
- ・出力技術
- ・プログラム言語
- ・文字編集、図形編集
- ・言語処理
- ・ワードプロセッサおよび OCR
- ・文字・図形データベース
- ・ドキュメンテーションと辞書
- ・テレックスおよびファクシミリ通信

公 用 語：英 語

論文応募方法

英語によるものとしますが、下記に示す二種のうちいずれかにて応募下さい。

長編：9000 語まで（図表を含め、ダブルスペースにて 36 頁まで）

短篇：3500 語まで（図表を含め、ダブルスペースにて 14 頁まで）

各論文中には約 200 語のアブストラクトを含めて下さい。

採用論文は論文集に収録・出版されます。

論文審査用に、1983 年 2 月 10 日までに、論文のコピー 3 部を下記のプログラム担当委員まで送付して下さい。（論文採用決定通知は 1983 年 4 月 10 日）

山田 尚勇 〒113 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学理学部教授

主 催	(社)情報処理学会 Chinese Language Computer Society (米国)
顧 問	高橋 秀俊 (慶 大)
委 員 長	元岡 達 (東 大)
事 務 局 担 当 委 員	飯村 二郎 (電電公社)
プログラム 担 当 委 員	Yaohan Chu (Maryland 大)
	森 健一 (東 芝)
	山田 尚勇 (東 大)
財 務 担 当 委 員	森岡 武 (日 電)
設 計 担 当 委 員	古沢 章 (電 子 協)
広 報 担 当 委 員	砂田登士夫 (富 士 通)
リ エ ゾ ン 委 員	石原孝一郎 (日 立)

「アドバンスト・データベース・システム」シンポジウム

開催のお知らせ

——設計・診断・研究開発・意思決定のツールとして——

標記シンポジウムに関して、多数の論文をご応募頂き誠に有難うございました。論文審査の結果、下記要領でシンポジウムを開催致しますので、多数の方々のご参加をお願い致します。

日 時 昭和 57 年 12 月 8 日 (水), 9 日 (木) 9: 00~17: 00

場 所 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

参 加 費 会員 10,000 円, 非会員 15,000 円, 学生会員 5,000 円

申込締切 昭和 57 年 11 月 22 日 (月) (申込書は「情報処理」9 月号にあります)

~~~~~プログラム~~~~~

第 1 日 12 月 8 日 (水)

・ Opening Address (9: 00~9: 15) 酒井 博敬 (日 立)

・ Keynote Address (9: 15~10: 15)

「鉄鋼業における情報システムの現状と展望」

伊藤 正雄 (新日鉄)

Session 1. Advanced Applications (10: 25~12: 40)

座長 穂鷹 良介 (筑波大)

・ 化合物の総合データベース・システム (汎域データベース) の試作

長田 洋 (旭リサーチセンター)

・ 住友金属鹿島製鉄所における大規模データベース・システム

葛城 和夫 (住友金属)

・ 情報革命時代における証券情報システムとデータベースの一考察

太田 清史, 三竿 誠一, 藤沼 彰久 (野村コンピュータ・システム)

——昼食 (12: 40~13: 40)——

Session 2. Research-oriented Database Systems (13: 40~15: 10)

座長 石井 義興 (ソフトウェア・エージェンシー)

・ Adbis による結晶構造データベース・システムの構築

松尾 文碩, 二村 祥一, 高木 利久, 河野 重昭 (九大)

・ データベース構築管理のための知的支援システム

磯本 征雄, 石桁 正士, 溝口理一郎, 角所 収 (阪 大)

——休憩 (15: 10~15: 30)——

Session 3. User Interface (15: 30~17: 00)

座長 有沢 博 (横浜国大)

・ 統計データベースの DD/D とユーザ・ビュー

池田 秀人, 小林 康幸, 二神かほる, 石原 亘 (広島大)

・ パーソナル・データベースの構築と統合による情報システムの一設計

松田 孝子, 田中 信行 (東北大)

第 2 日 12 月 9 日 (木)

Session 4. Knowledge Base and Database (9: 00~10: 40)

座長 酒井 博敬 (日 立)

・ 知識ベースとデータベースの接点

上野 晴樹 (東京電機大)

・ 知識ベースおよびデータベースを用いたモデル構築技法

大須賀節雄, 山内 平行, 河上 達 (東 大)

Session 5. Modeling and Design Methodology (10: 50~12: 30)

座長 宇野 栄 (日本アイ・ビー・エム)

・ Entity-Association データ・モデルのネットワーク DBMS による実現

有沢 博, 盛屋 邦彦 (横浜国大)

・ CAD/CAM におけるモデリングとデータベースについて

木村 文彦 (東 大)

——昼食 (12: 30~13: 30)——

Panel Discussion (13: 30~17: 00)

「アドバンスト・データベース・システムの方向を探る」

司会 大須賀節雄 (東 大)

パネリスト: 石井 義興 (ソフトウェア・エージェンシー), 馬野 元秀 (岡山理科大), 小林 功武

(産能大), 佐藤 英人 (経済企画庁), 木村 文彦 (東大), 穂鷹 良介 (筑波大)

支 部 だ よ り

昭和 57 年度 情報処理学会関西支部 支部大会

情報処理学会関西支部 支部大会を下記のように開催いたします。会員相互の親睦を高めると共に、今後の発展をはかりたいと存じます。お差繰りのうへご出席下さいますようご案内申し上げます。

記

と き 昭和 57 年 12 月 3 日 (金) 10:00~16:00

と ころ (財)関西情報センター会議室
〒530 大阪市北区中之島 5-3-51
大阪国際貿易センタービル Tel. 06 (448) 6636

参 加 費 無料

申込方法 はがきに「支部大会申込」と書き、①氏名 ②勤務先 ③部課役職 ④住所
⑤電話番号をご記入の上お申込下さい。

申 込 先 情報処理学会 関西支部
〒530 大阪市北区中之島 5-3-51 大阪国際貿易センタービル 4 F
(財)関西情報センター気付 Tel. 06 (448) 6636

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

- 支部長挨拶 (10:00~10:15) 高島堅助 (大阪大学)
- 記念講演 (10:15~11:15)
「第 5 世代コンピュータをとりまく最近のトピックス」(仮題) 田中幸吉 (大阪大学)
- 研究会報告 (11:15~12:00)
 - (1) システム・ソルビング研究会 主査 石桁正士 (大阪電気通信大学)
 - (2) ソフトウェア研究会 主査 北川 一 (京 都 大 学)

—— 昼 食 (12:00~13:00) ——

- パネル討論 (13:00~16:00)
計算機における漢字処理
 - 座 長 萩原 宏 (京 都 大 学)
 - パネラー 星野 聡 (図書館情報大学)
 - 島崎真昭 (京 都 大 学)
 - 勝村哲也 (京 都 大 学)
 - 大場利彦 (富 士 通(株))